

施策評価シート

年度

3

1. 基本情報

まちづくり目標	心地よい生活環境が保たれたまち		
施策	環境にやさしいまちづくり		
基本施策	豊かな自然環境の保全		
取り組み事項	環境汚染防止対策を推進する		
主管部局	市民生活部 環境課	関連部局	

めざす暮らしの姿

豊かな自然環境の保全

基本方針

循環の連鎖に配慮した多角的な視点で、自然環境の保全と活用を市民とともに展開し、豊かな自然を次世代に承継していきます。
また、市民自らが温室効果ガス排出量の削減に取り組めるよう、啓発と環境学習を展開します。

施策の方針

定められた環境基準の達成を目標とし、監視体制を充実させることで良好な環境を維持します。

2. 事業費

(1) 歳出

単位: 人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.5	0.45	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			3,393,277	3,442,442	0	0
事業費計			5,707,038	7,988,000	0	0
フルコスト			9,100,315	11,430,442	0	0

(2) 歳入

単位: 人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金				0	0
	県支出金		1,934,000	1,934,000	0	0
	市債				0	0
	その他				0	0
一般財源1			7,166,315	9,496,442	0	0
一般財源2			3,773,038	6,054,000	0	0

3. 成果指標

(1) 成果指標

指標名	環境保全事業					
単位	件					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単年度目標値	60	60	60	60	60	60
単年度実績値	60	59	61			
単年度達成率	100%	98.33%	101.66%	-	-	-

(2) 施策成果指標の結果に対する所見

成果指標	環境保全事業
前年度との比較	↑: 向上
所見	住民の環境に係る苦情が多様化する中、迅速な対応、解決をすることができたが、職員数に限りもあるので、他課との連携も図りながら適正に処理する必要がある。

評価対象外の構成事務事業一覧

事務事業名	
大気汚染常時監視網管理運営事業	
公害行政推進事業	
水質汚濁調査運営事業	

施策の事後総合評価

(1) 施策成果指標

施策成果指標	単年度目標達成率	前年度との比較	最終目標値に対する達成率
環境保全事業	101.66%	↑: 向上	101.66%
水質測定	100%	→: 維持	100%
【総合評価】施策成果指標	単年度目標平均達成率(a)	達成度 ((a)による自動判定)	達成状況
	100.83%	高	B: おおむね順調
	達成状況の原因分析、説明等		
	概ね計画通りに進捗している。		

(2) 施策の事後総合評価

当初方針の通りに進んだか	はい 公害関係法規制のもと、監視体制を充実するとともに良好な環境の保全が図れた。
構成事務事業に課題はないか	ある 苦情処理等、素早い対応が必要であるが、職員数が限られており、苦情の多様化に効率的に対応していくためには、他課との連携が必要である。
施策の総合評価	B: おおむね順調に進捗している
施策の方針に対する実績、指標の達成状況の分析、今後の課題・方向性	職員の少ない中、苦情に係る対応について迅速に処理ができた。
今年度の成果等	公害関係法規制のもと、専門業者への業務委託等により監視体制を充実し、良好な環境の保全が図られた。
第三者評価委員会意見	

施策評価シート

年度

3

1. 基本情報

まちづくり目標	心地よい生活環境が保たれたまち		
施策	環境にやさしいまちづくり		
基本施策	豊かな自然環境の保全		
取り組み事項	環境保全活動を推進する		
主管部局	市民生活部 環境課	関連部局	

めざす暮らしの姿

豊かな自然環境の保全

基本方針

循環の連鎖に配慮した多角的な視点で、自然環境の保全と活用を市民とともに展開し、豊かな自然を次世代に承継していきます。
また、市民自らが温室効果ガス排出量の削減に取り組めるよう、啓発と環境学習を展開します。

施策の方針

自然体験型環境学習を市民及び関係団体と協働で実施し、市民の自然や環境保全活動を推進します。

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.6	0.55	0.5	0.5
会計年度任用職員数			0.05	0.05	0.0	0.0
人件費計			4,142,342	4,280,664	3,824,938	3,824,938
事業費計			32,644	995,000	973,000	973,000
フルコスト			4,174,986	5,275,664	4,797,938	4,797,938

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金				0	0
	県支出金				0	0
	市債				0	0
	その他				0	0
一般財源1			4,174,986	5,275,664	4,797,938	4,797,938
一般財源2			32,644	995,000	973,000	973,000

3. 成果指標

(1) 成果指標

指標名	里海体験学習参加人数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単年度目標値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
単年度実績値	501	0	0			
単年度達成率	50.1%	-	-	-	-	-

(2) 施策成果指標の結果に対する所見

成果指標	里海体験学習参加人数
前年度との比較	→:維持
所見	概ね計画通り進捗している。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	040301020002	事務事業名	環境施策関連事業
まちづくり目標	心地よい生活環境が保たれたまち	施策	環境にやさしいまちづくり
基本施策	豊かな自然環境の保全	取り組み事項	環境保全活動を推進する
部名	市民生活部	課名	環境課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	小学校高学年児童を対象に、相生湾や播磨灘の身近な海の自然環境を守り育てる活動として里海づくりを行い、故郷の海について体験型の学習を行う。		
対象	特に小学生児童、市民		
目的	相生湾の自然に触れ、自然の大切さ、ふるさとに愛着を感じる子どもたちを育てる。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画			
根拠法令	法律・政令・省令 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(環境教育等促進法)		

2. 事業費

(1) 歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.53	0.48	0.5	0.5
会計年度任用職員数			0.03	0.03	0.0	0.0
人件費計			3,639,120	3,715,880	3,824,938	3,824,938
事業費計			32,644	972,000	973,000	973,000
フルコスト			3,671,764	4,687,880	4,797,938	4,797,938

(2) 歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコスト-特定財源			3,671,764	4,687,880	4,797,938	4,797,938
事業費計-特定財源			32,644	972,000	973,000	973,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】里海体験学習参加人数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
単年度実績値	501	0	0			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	50.1%	-	-	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	里海体験学習参加人数1人に係るコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値	969.453	29.71	3,671.764	4,687.88	4,797.938	4,797.938
単年度実績値	1,935.0359					

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	相生の財産である海に特化した事業展開をしており、ふるさとに愛着を感じる子ども達を増やし、将来に渡り相生に思いを持った子ども達が育っている。 環境教育体験活動優良事例に選定された。 学習を行うため、小学4年生以上の児童20名で「里海クラブ」を結成	なし
有効性	B: 比較的有効である	学習の講師、指導者として専門家、市民団体の協力を得て行っており、より質の高い活動となっている。 普段相生の海に触れたことがない子供やその保護者も参加しており、相生の事を知るとい意味においても有効である。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	年間スケジュールを決め、参加者もクラブ員として固定することで効率よく展開出来ている。 学習会の実施については、参加している市民団体が、それぞれの得意分野でメインとなって行い、他の団体はサポートにまわり活動している。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	新型コロナウイルス感染拡大防止のために事業を休止としたが、対策を講じながら事業を行う方法を検討する必要がある。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	里海クラブ会員については、対象児童全員に対し、各学校を通じて配布案内を行っている。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	活動の幅を広げるためには参加者枠を広げる必要もあると思われるが、海での体験活動がメインのため、安全管理面から「里海クラブ」員を20名限定としている。安全に活動を行っていただける方を研究する必要がある。
休止・廃止となったときの影響	

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	概ね計画通り進捗している。